

生活支援活動でささえあいましょう

このまちのみんなが、よりささえあって生活できるように、市の社会福祉協議会の助成を受けて、生活支援活動に使用する車を導入しました。生活支援の要望のある家に向かっ、あるいは、必要な物品を購入しに、こんな車がまちの中を走ります。時に、必要な活動には屋根に梯子を載せて、走ります。



3月、班の多くの方々の協力で、A家の剪定がなされました。その際、切り落とした枝は、自家用車で運んでくださいました。今後は、この車で集積所へ運ぶことができますようになります。地域の皆様に役立てます。生活支援の要望を出し

てください。ボランティアができる範囲で、実施いたします。

家族が認知症ではないかと思ったら、伝えてほしいですか？

先日、こんな会話がありました。

認知症の夫を介護している川島さんが言いました。

「認知症とわかってから、地域の人から、ご主人はどうもおかしいと思っていたと言われた。

そう思っていたら、早くに伝えてもらえたらよかった。」

別の人が言いました。

「近所の人たちが、あの方はどうも認知症になりかけのような気がする。早く医者に診てもらった方が良くと思うと言うが、誰も家族にそれを伝えられない。どうしたものか。」

「認知症みたいですよ。という言い方でなくて、これこれこういうことがありましたよと、認知症を疑った事実を伝えたらいい。

伝える人はその家族に最も、関係の深い人がいいね。」

とのアドバイスは、長年施設で、認知症の人のお世話をしていた佐分さんでした。

心配なことを伝えてもらえる人間関係を作る努力をする必要も感じました。



4月10日理事・評議員合同会議にて、27年度の事業報告、決算報告、新年度の活動方針・予算案など可決いたしました。28年度は特に生活支援ボランティア活動の活発化を目標にします。順次皆様にも報告していきます。